



# くすり博物館だより

〒501-61 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689-2101

第24号

## 特別展 コレラ —身近にいます コレラ菌—

1991.3.15～1991.9.1



▲コレラ菌 菌体の一端にある一本の鞭毛で活発に活動します。コッホは、1883年にコレラ菌を発見しました。

### コレラとは

コレラは、コレラ菌が出す毒素（コレラエンテロトキシン）によって起こる下痢を主症状とする病気です。口から摂取されたコレラ菌は健康な人の場合胃液によって殺されてしまいます。しかし、胃を通過して小腸に達すると、コレラ菌は盛んに増殖し、下痢の原因となる毒素を出します。コレラの下痢便は白色ないし灰白色の“米のとぎ汁様”といわれる液状の便です。下痢便の量は1日10ℓないし数10ℓに及ぶことがあり、病気の全期間を通じて体重の2倍量にも達するという報告もあります。便の回数も頻繁で、数分おきに排便することもあります。そのため、脱水症状をおこし、さらにすすむと生命が危険になります。

コレラは激しい下痢をおこし、2～3日中で死亡する人が多いので昔は「三日コロリ」といわれたくらい恐ろしい病気でした。

現在、日本では衛生環境が改善され、医療の進歩により、コレラの集団発生はほとんどなくなりました。しかし、コレラ流行地の東南アジアなどからコレラ患者が帰国したり、輸入食品（主に魚介類）などが原因で、発病する例も少なくありません。また、日本の河川などからコレラ菌が分離されることもあります。

コレラ菌は私たちの身近にいるのです。

コレラは伝染力の強い病気ですから、患者を早く発見し、隔離することが大切です。患者に水分を十分補給するなど、適切な治療をすれば、決して恐ろしい病気ではありません。この展示が皆様のご参考となれば幸いです。



### ▲コレラコット

コレラ流行地の病棟では、コレラ患者をコレラコットというベッドに収容しています。これはキャンバス製のベッドでほぼ中央に直径約20cmの穴があいています。そこに患者のお尻の部分を当てて寝かせます。穴のすぐ下に目盛りつきのバケツが置いてあり、排便量が測れるようになっています。



==水分の補給が大切です==



▲経口補水療法

コレラには、大量の水分の補給が最も効果的な治療法になります。コレラ常在国でWHOが推薦している経口補水療法は、経口補水塩(省略してO.R.S.)を水に溶かして飲ませ、多量の水分補給を行います。

▶隔離につかわれたQ旗

1383年マルセイユに検疫所が設けられ、流行病に汚染された恐れのある、船舶、乗組員、貨物、を“40日間”(イタリア語で“quarantena”)港の海上に停泊させたまま、隔離しました。QはQuarantine(検疫)の頭文字です。また、わが国では、明治時代の「<sup>コレラ</sup>虎列刺病<sup>毒</sup>豫<sup>防</sup>法<sup>心得</sup>」には「<sup>コレラ</sup>避病院には黄色の布にQ字を墨記した旗をたて、厳しく外の人との交通を絶つこと」と記されています。現在、Q旗は黄色の国際信号旗で、入港した船は接岸の許可をうけるまで、これをかけます。

旗は目印でした



(破線内が現在のQ旗)

==コレラ予防に配られた明治時代のちらし==



◀虎列刺病予防法図解 (明治時代)

大久保利道の名で布告されたコレラ予防法のちらし。図解でわかりやすく衣食住に関する注意が書いてあります。



◀はやり病三日ころりのまじない

(江戸後期～明治初期) 古い書物より、悪病を家にいれないという瑞獣(青竜、白虎、朱雀、玄亀)の絵を家の東西南北に飾りました。

==錦絵から人々の苦勞がうかがえます(予防と治療の工夫)==

▶えきれいりやうちの奇法 (江戸時代)

旅の僧から聞いた流行病の治療法。病人の枕元に刃物をおいて呪いをとねえます。塩をよくいって布につつま腹や腰を暖めることも説いてあります。



▶神田区衛生会衛生一口噺 (明治時代)

東京の神田区衛生会がコレラ予防法を町内に配ったと思われま。食物は火をよく通し、梅干し、しょうが、などをすすめています。コレラの予防の新知识を対話調でわかりやすくかいてあります。



◀流行虎列刺病予防の心得 (明治10年)

居室や衣服を清潔にする・不潔な水を飲まない・食物に気をつけるなどあり、海軍兵学校と横浜の外人医師の教えとして石炭酸などの消毒薬の使用をすすめています。







つかみどり  
◀通神鳥（江戸時代）

コレラが大流行した時、繁盛した職業を風刺した絵です。鳥の頭は火葬場の人、とさかにお守り、首は僧侶、背中は神社の賽銭箱さいせん、尾は薬屋の看板と薬研やげん、羽はコレラの薬を示しています。



やきば  
▶茶毘室混雑の図（安政5年）

次々と持ち込まれる棺桶かんおけの処理ができず、山のようにならべられた棺桶で、江戸の火葬場が混雑している光景です。

今回の特別展は、京都大学医学部微生物学教室教授 竹田美文先生にご監修いただきました。

また、日本医史学会理事長代行 宗田 一先生、順天堂大学医学部医史学教室 酒井シヅ先生、大阪市立大学医学部細菌学教室 藪内英子先生、順天堂大学医学部細菌学教室 山本達男先生、岐阜大学医学部泌尿

器科 山本直樹先生、INTERNATIONAL CENTER FOR DIARRHOEAL DISEASE RESEARCH, (BANGLADESH) 所長Dr. Habte、財団法人医学文化保存会、名古屋検疫所、船の科学館、社団法人日本青年会議所（順不同）のご協力をいただきました。

医薬つれづれ抄(3)

安政5（1858）年に、長崎に来たアメリカの軍艦からコレラが発生し、長崎をはじめ大阪や江戸でコレラが大流行して多くの人々が亡くなりました。

人々は、激しい下痢と嘔吐がおこ

ると3日間でコロリと死ぬので、コレラを三日虎狼痢と呼んで怖れました。医師にも治療法がわからず困っていました。

その頃、長崎の医学伝習所で教師をしていたオランダの軍医ポンペは、コレラが発生したと聞くや、ウンデルリッヒのコレラ治療法に基づいてコレラ指針をまとめ、弟子の松本良順に訳させてひろめました。ポンペのこの指針は、キニ

ーネと阿片を使う治療法でした。

ところが、日本の多くの医師たちがポンペの指針を参考にしてキニーネを使ったので、キニーネが品切れになり、入手が困難になってしまいました。

この状態を見かねた緒方洪庵は、

## 緒方洪庵とポンペ

急いで「虎狼痢治準」という本を100部つくり、関係者に無料で配布しました。その本の中で、巻頭にポンペの指針をかけた、自分の蔵書の中から海外の医学書によるコレラの治療法を紹介し、総括的な見解をまとめてポンペの指針を鋭く批判しました。すなわち、コレラの経過を3期に分けて適切な投薬を行うべきであるのに、ポンペはこの3期を無視しており、後期にキニーネを使うのは危険

であることを指摘しました。

この洪庵のポンペ批判に対し、良順が抗議を申し入れて来たので、洪庵は「虎狼痢治準」を再版し、良順の抗議文を掲載するとともに多少の行き過ぎがあったことを謝したといいます。ウンデルリッヒ

の処方でもキニーネは初期に使うだけでしたので、洪

庵の当時の批判はもっともであったように思われます。



くすり博物館館長 藤田 孟



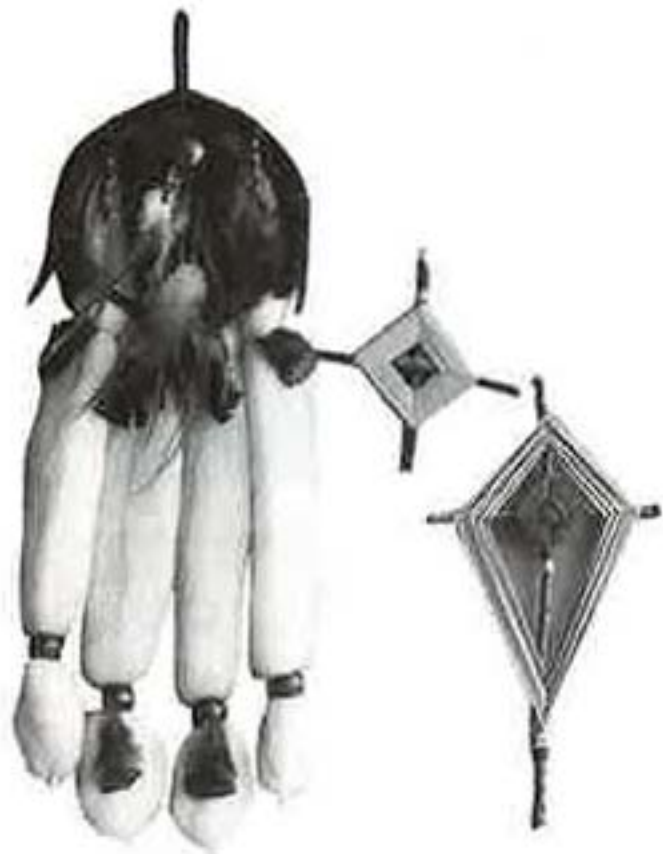
## 新収蔵資料

くすり博物館の収蔵資料は、多くの方々の温かいご協力により充実させていただいています。しかし、今まですぐには、ご寄贈・ご寄託の資料を展示できず、せっかくご来館いただいても展示室でごらんいただけませんでした。そこで現在、新収蔵資料をご紹介しますコーナーの

準備を進めています。それにさきがけて、誌上にて一部をご紹介します。

### ◀アメリカインディアンの魔除け…など

神戸市・うらべ医院のト部文麿先生が、アメリカの有名な精神科医のキューブラー・ロス先生よりいただいた珍しいインディアンの魔除けなど、15点をご寄託くださいました。



### ▶お歯黒の道具

大変きれいなお道具で、奈良市・東九条病院の島川富昌先生より、ご寄贈いただきました。

お歯黒は、最近ではむし歯を防ぐ効果があるので…と再び注目を集めています。



### ◀売薬印紙

岐阜市の加藤栄治様より、ご寄贈いただきました。当時の貴重な売薬印紙が、ほぼそろっています。



## ごあんない

れいな絵はがきをつくりました。(カラーでお見せできないのが残念です！)

A・Bの2セット(各8枚入り)があり、どちらも1セット200円です。このほかCセット(資料の写真のみの絵はがき、8枚入り)も200円で販売しています。ちょっとしたお手紙に、またちょっとした(?)“くすり博士”になるために(??)お求めいただいてはいかがでしょうか。

このほか、その名のとおり、図版を多く使ってわかりやすく資料を紹介した『目で見るくすりの博物誌』(平成2年改訂、一部1500円)も皆様に大変ご好評をいただいております。

また、収蔵品のうち、看板を特集した『収蔵資料集—くすり看板』(一部2000円)や、天然痘の根絶を記念した特別展『天然痘ゼロへの道』の図録(一部1000円)も販売いたしております。どれも郵送できます。お申込は電話・はがきで。送料は申込者負担、代金は郵便為替にてお支払いください。



### くすり博物館の絵はがきです

皆様は全国紙や『週刊朝日』誌上で『エーザイクすり博物誌』という広告をごらんになったことがありますか？ これは、くすり博物館の資料の写真ときれいなイラストに、面白くてためになる解説をつけた広告です。くすり博物館では、この広告をもとにして、き

館長 藤田孟 学芸員 稲垣裕美(編集担当) 学芸員・司書 野尻佳与子 伊藤恭子 庶務 川瀬麻起子 説明員 高橋千寿  
薬用植物園園長 逸見誠三郎 顧問 青木允夫  
くすり博物館 9:00~16:00開館(月曜・12月28日~1月8日 休館)